

## 古代アメリカ学会 第6回西日本部会研究懇談会のお知らせ

### 【研究懇談会概要】

「最新技術を駆使したピラミッド研究の現在」と題した今回の研究懇談会では、新たな試みとしてエジプトのピラミッド研究の若手研究者2名をお招きし、3D計測やミュオンといった現在注目されている最先端技術によるピラミッド研究の現在について報告いただきます。古代アメリカの専門家をコメンテーターとし、古代アメリカの建造物研究にどのように生かせるか、情報交換や議論を広げていきたいと思えます。学会・地域を超えて、新たな学术交流・知識獲得の場にしたいと思えます。是非この機会にふるってご参加ください。

### 発表1「エジプト・ピラミッド研究における3D計測の変遷と展望」

【発表者】河江肖剰（名古屋大学）

【コメンテーター】宮野元太郎（大阪観光大学）

#### 【概要】

エジプト最古のピラミッドが約4600年前に建設されてから、70基以上の巨大なピラミッドが、現在のカイロ近郊のメンフィス地区に造営された。弊調査チーム（Giza 3D Surevy / Abusir 3D Survey）は、2005年から、アメリカ、エジプト、チェコの研究機関と共同調査を推進し、現在まで7基のピラミッドの3D計測を完遂している。レーザー測量からSFM/MVSによる3Dモデルの生成、ドローンを用いた画像取得とGNSS測量、そして数理3次元計測プランといった方法を導入することで、新次元の史料を作りだし、それによってピラミッド建造方法の実証的な解明を試みている。この研究懇談会では、ピラミッド研究における測量調査の変遷をたどりながら、エジプト考古学における3D計測の今後の展望について発表する。

### 発表1「宇宙線イメージングによるエジプトのピラミッド調査とその技術的展望」

【発表者】森島邦博（名古屋大学高等研究院・特任助教）

【コメンテーター】中村誠一（金沢大学）

#### 【概要】

近年、宇宙線に含まれるミュオン（素粒子の一種）が持つ高い透過力を利用する事でX線レントゲン写真のように大型構造物内部の物質コントラストを非破壊でイメージングする技術の開発と多分野への応用が盛んに進められている。名古屋大学が参加する国際共同研究ScanPyramidsでは、2015年10月よりギザにあるクフ王のピラミッドを含む4つのピラミッドを対象とした宇宙線イメージングによる調査を進めている。我々は、宇宙線ミュオンを測定する装置として原子核乾板と呼ぶ特殊な写真フィルムを開発し、その軽量・コンパクト・電源不要という特徴を生かしてピラミッド内の様々な場所に設置してその周辺部のイメージングを行った結果、クフ王のピラミッドの北側入口から続く下降通路の上部に未知の空間が存在する事を初めて確認した。本研究懇談会では、この技術の詳細と最新の成果および今後の展望について紹介する。

**【日時】** : 2017年11月26日(日) 13:30~17:00時頃まで

- ・開会挨拶 13:30
- ・発表1 13:35~15:05 (発表時間1時間+コメントおよび質疑応答30分)
- ・小休憩 15分
- ・発表2 15:20~16:50 (発表時間1時間+コメントおよび質疑応答30分)

**【会場】** : 名古屋大学文学部棟127号室

**【連絡先】** :

- ・西日本部会幹事・市川 彰 (名古屋大学高等研究院) [ichiaki5\\*lit.nagoya-u.ac.jp](mailto:ichiaki5*lit.nagoya-u.ac.jp)
- ・古代アメリカ学会事務局 [jssaa\\*sa.rwx.jp](mailto:jssaa*sa.rwx.jp)

(上記アドレスの\*を@に換えて下さい)